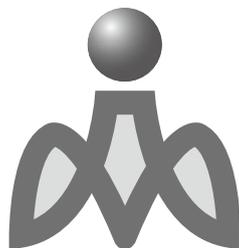


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成27年10月～12月実績〕
〔平成28年1月～3月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調査要領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第3四半期 平成27年10月～12月期 「調査時点：平成27年11月15日」

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韭 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市川三郷町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南都留中部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【II】1. 産業全体の業況概観・・・については、商工会調査企業だけではなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ287サンプルによるものである。

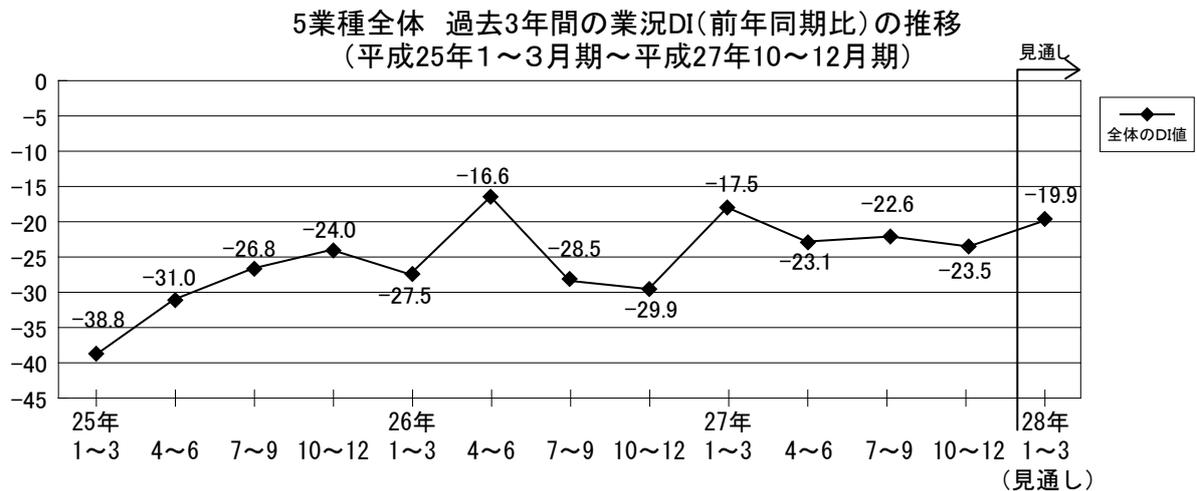
【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。今期の業況判断DIは、▲23.5と前期比で0.9ポイント悪化している。

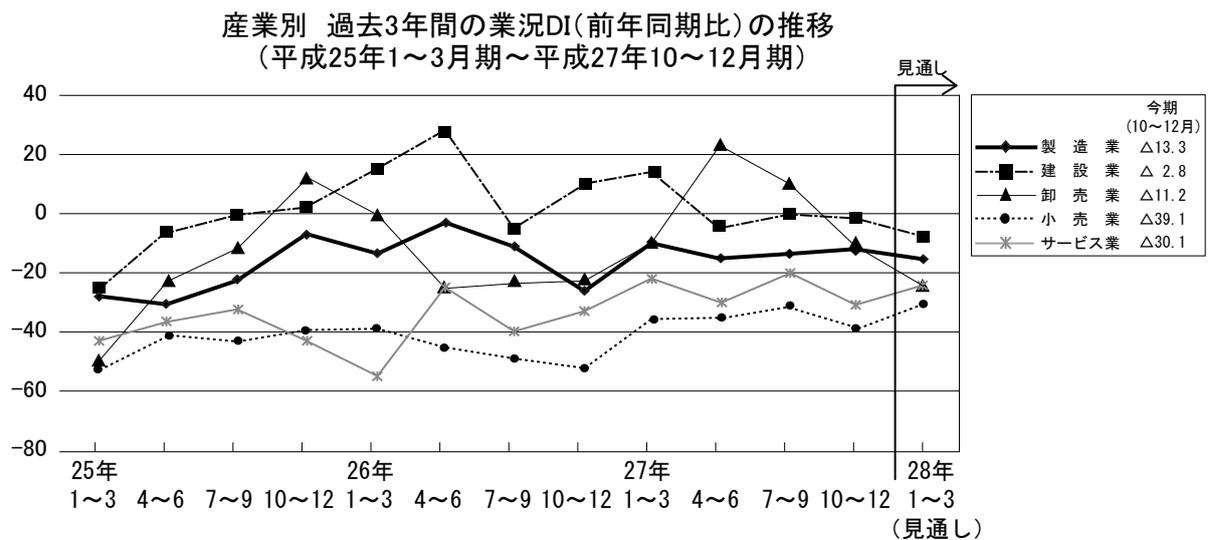
一方、来期については、▲19.9と改善の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

製造業が▲13.3と前期比で6.2ポイント、建設業が▲2.8と前期比で5.3ポイント改善している。一方、卸売業が▲11.2と前期比で22.4ポイント、小売業が▲39.1と前期比で6.7ポイント、サービス業が▲30.1と前期比で3.3ポイント悪化している。

来期は、小売業、サービス業が改善見通しである一方、製造業、建設業、卸売業が悪化する見通しとなっている。



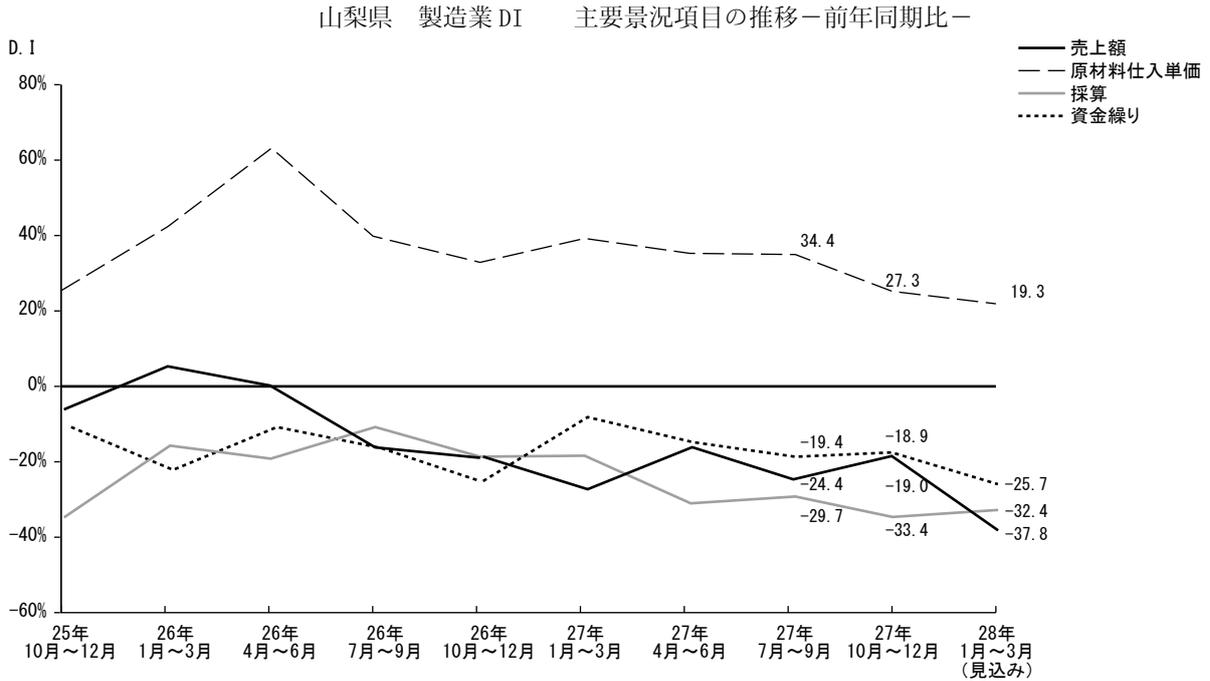
【注記】上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの122企業を含めた287サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況DIについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲19.0と前期比で5.4ポイント改善している。一方、来期は▲37.8と悪化する見通しとなっている。原材料仕入単価D Iは、今期は27.3と前期比で7.1ポイント低下(改善)している。来期は19.3と更に低下(改善)する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲33.4と前期比で3.7ポイント悪化している。一方、来期は▲32.4とやや改善する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲18.9と前期比で0.5ポイント改善している。一方、来期は▲25.7と悪化する見通しとなっている。

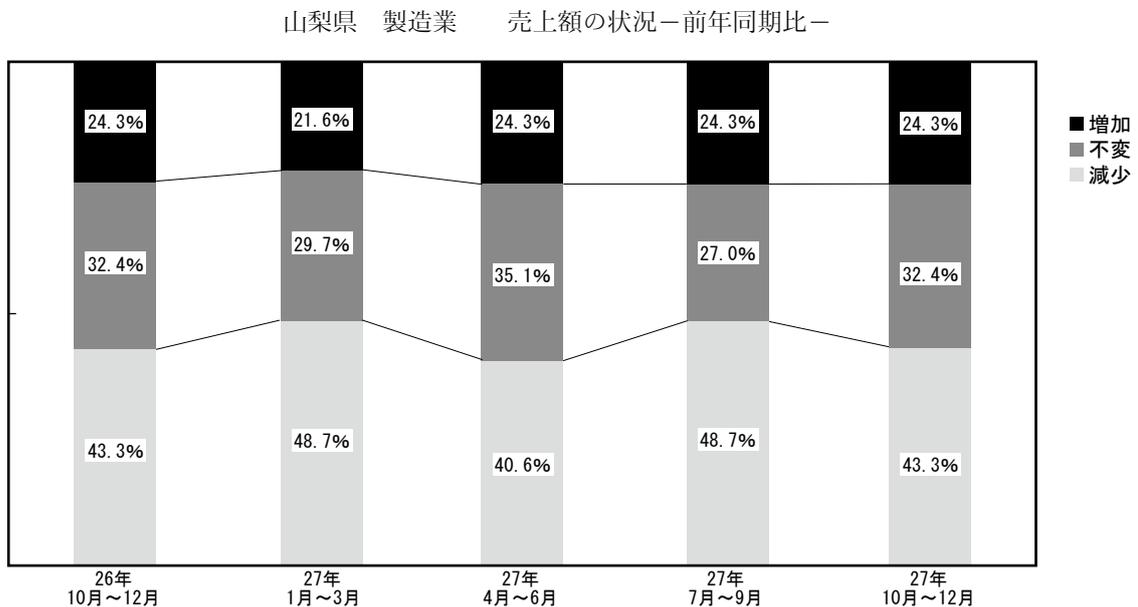
今期は、採算D Iを除いて改善したものの、来期は、売上額D Iや資金繰りD Iが大きく悪化する見通しとなっている。



(2) 主な項目で見る業況

① 売上額(売上額D Iの内容(回答企業数37社))

「増加」と答えた企業の割合は、24.3%(9社)と横ばい、「不変」は32.4%(12社)と増加している(前期比+2社)。「減少」は43.3%(16社)と減少している(前期比▲2社)。

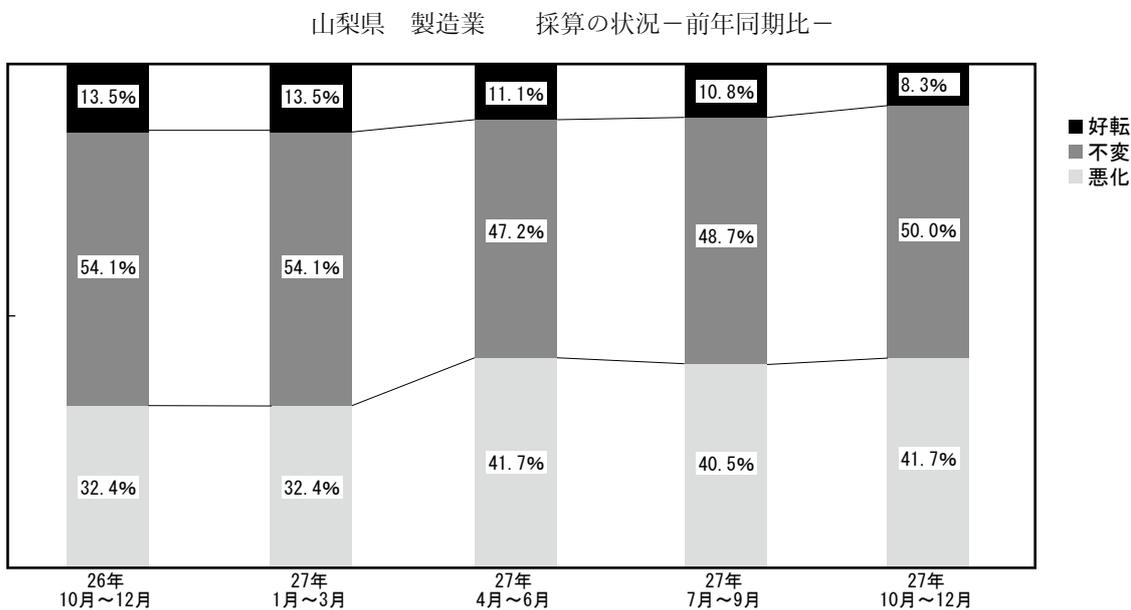


② 採算（採算D Iの内容（回答企業数 36社（前期 37社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.3%（3社）と減少している（前期比▲1社）。

「不変」は50.0%（18社）、「悪化」は41.7%（15社）と横ばいとなっている。



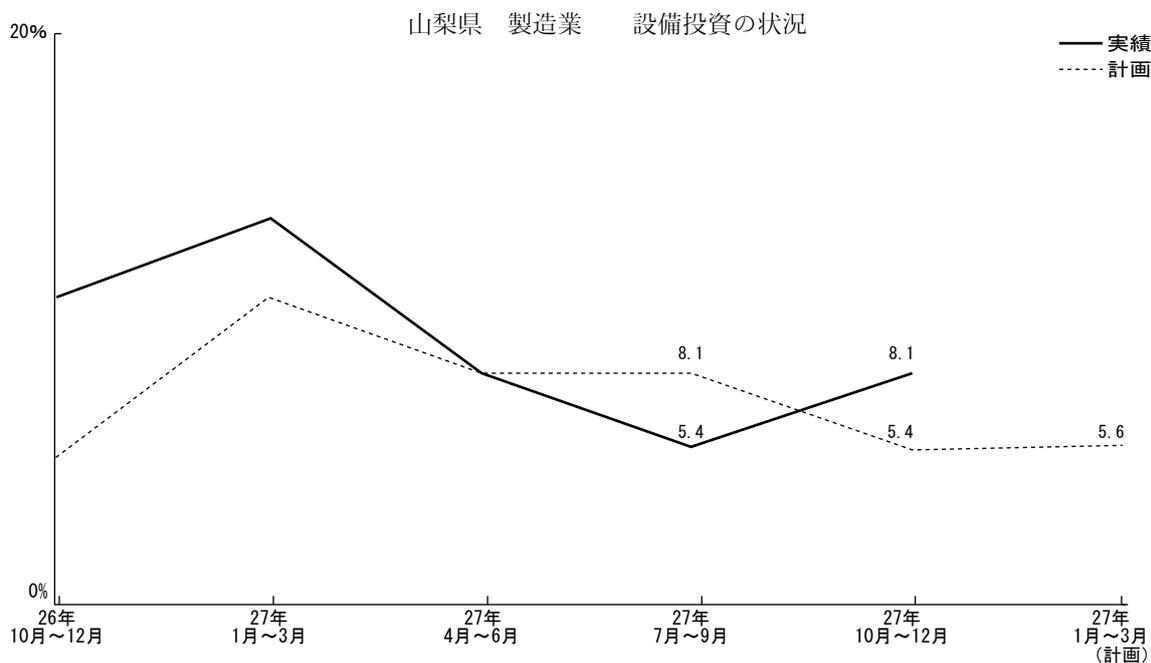
③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数 37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.1%（3社）であった（前期比+2.7%）。

その設備投資の内容は、「生産設備」が2件、「土地」、「付帯施設」が1件ずつであった。

来期の計画については、5.6%（2社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「工場建物」、「生産設備」が2件ずつ、「土地」、「福利厚生施設」が1件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 32 社）

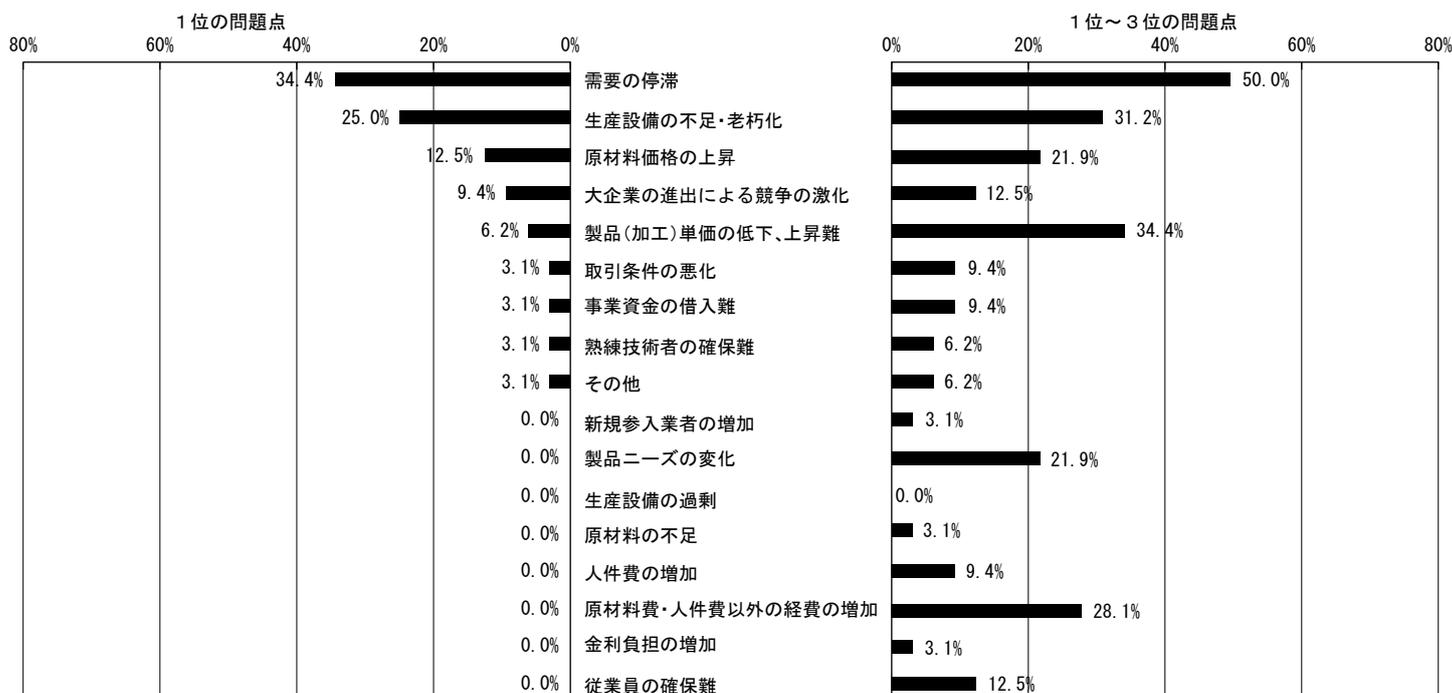
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 34.4%（11 社）であり、2 番目は、「生産設備の不足・老朽化」の 25.0%（8 社）である。そのあと、「原材料価格の上昇」の 12.5%（4 社）が続く。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の 50.0%（16 社）であり、2 番目は、「製品（加工）単価の低下、上昇難」の 34.4%（11 社）である。そのあと、「生産設備の不足・老朽化」の 31.2%（10 社）が続く。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	14
飲料・飼料・たばこ製造業	1	3
衣服・その他繊維製品製造業	0	3
印刷・同関連業	2	5
化学工業	1	5
プラスチック製品製造業	4	11
金属製品製造業	2	5
一般機械器具製造業	13	32
電気機械器具製造業	2	5
輸送用機械器具製造業	1	3
その他製造業	6	14
合計	37	100

従業員規模別

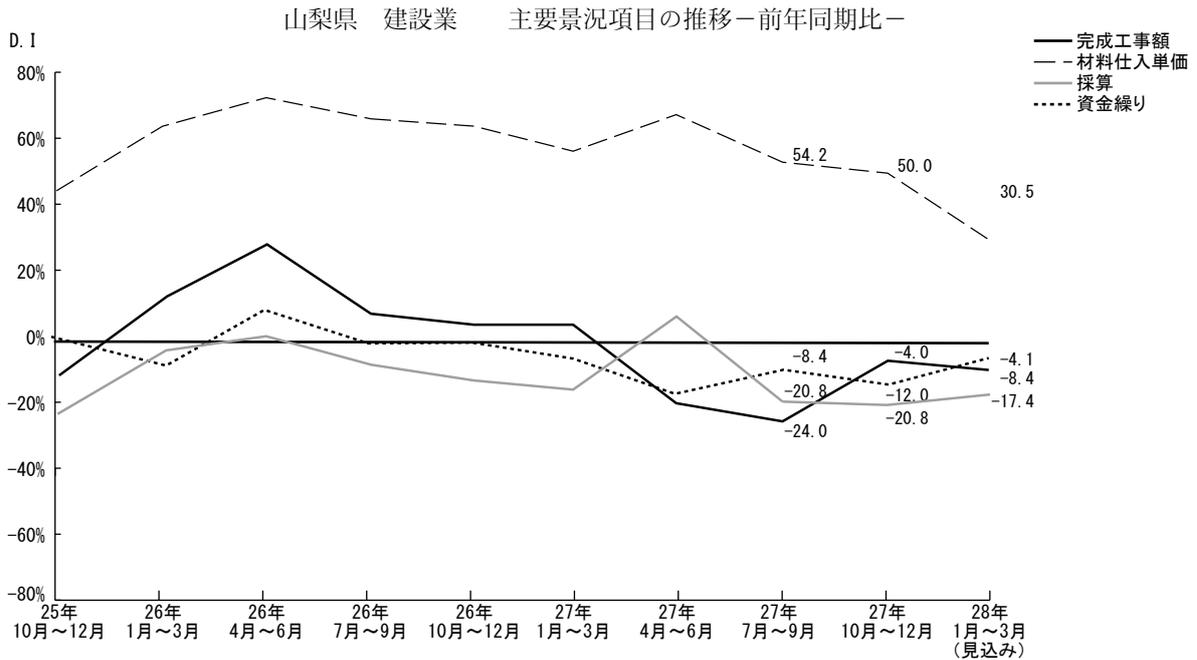
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	24	62.2	20	51.4
3 人～5 人以下	5	16.2	5	13.5
6 人～10 人以下	4	10.8	7	21.6
11 人～20 人以下	4	10.8	5	13.5
合計	37	100	37	100

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iについては、今期は▲4.0と前期比で20ポイント改善している。一方、来期は▲8.4と悪化する見通しとなっている。材料仕入単価D Iは、今期は50.0と前期比で4.2ポイント低下（改善）している。来期は30.5と更に低下（改善）する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲20.8と前期から横ばいとなっている。来期は▲17.4と改善する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲12.0と前期比で3.6ポイント悪化している。一方、来期は▲4.1と改善する見通しとなっている。

今期は、完成工事額D Iや材料仕入単価D Iが改善した一方、資金繰りD Iが悪化している。来期は、完成工事額D Iが悪化する一方、材料仕入単価D Iの更なる低下（改善）や資金繰りD Iが改善見通しとなっている。



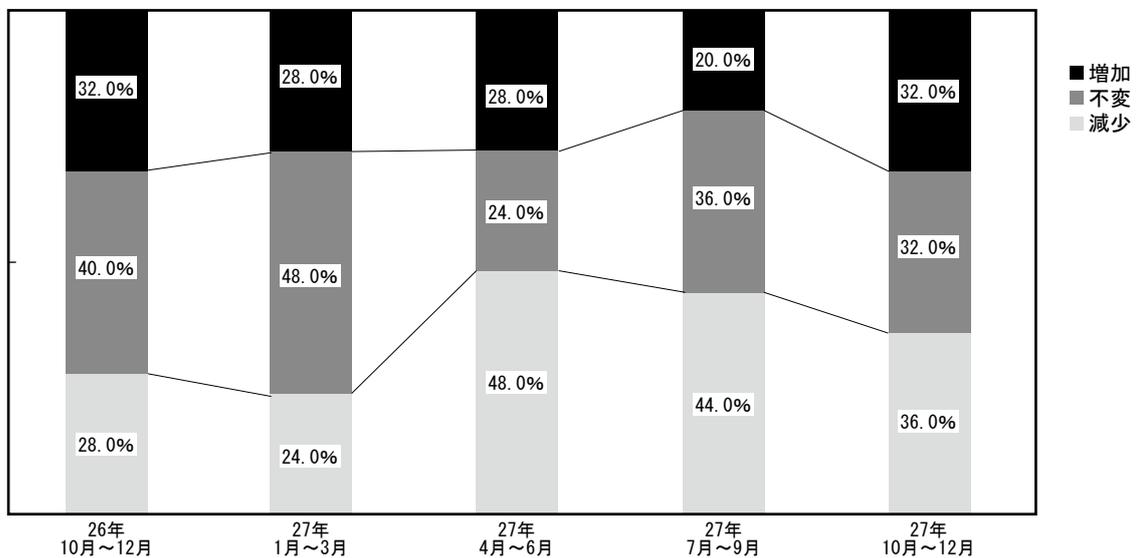
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数 25社））

「増加」と答えた企業の割合は、32.0%（8社）と増加している（前期比+3社）。

「不変」は32.0%（8社）と減少し（前期比▲1社）、「減少」も36.0%（9社）と減少している（前期比▲2社）。

山梨県 建設業 完成工事額の状況－前年同期比－

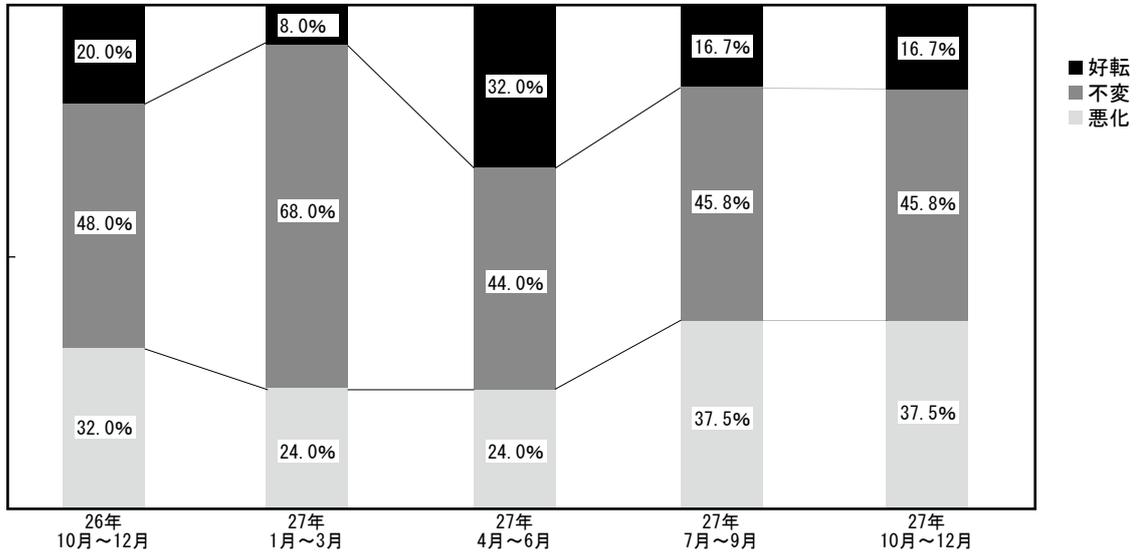


② 採算（採算D Iの内容（回答企業数 24社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、16.7%（4社）と横ばい、「不変」が45.8%（11社）、「悪化」が37.5%（9社）といずれも横ばいとなっている。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－



③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数 24社））

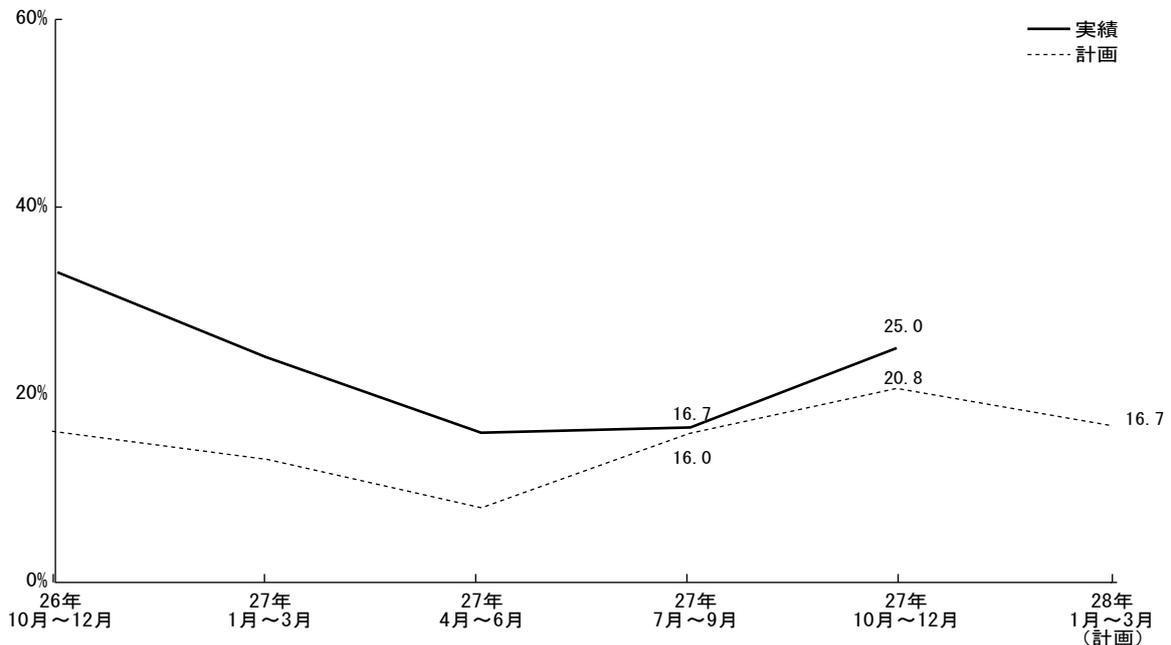
今期において、設備投資を行った企業の割合は25.0%（6社）であった（前期比+8.3%）。

その設備投資の内容は、「建設機械」が3件、「車両・運搬具」、「付帯設備」、「福利厚生施設」、「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、16.7%（4社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が2件、「土地」、「建設機械」、「その他」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 23 社）

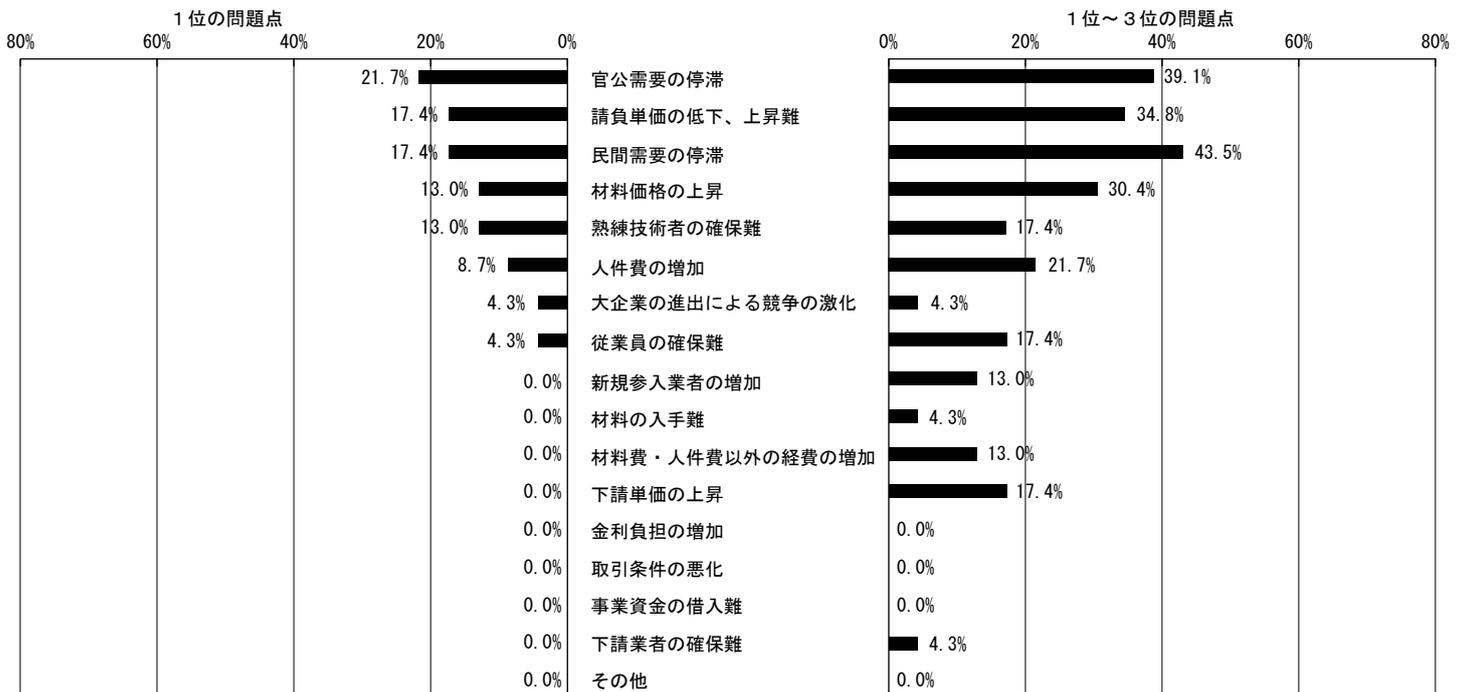
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「官公需の停滞」の 21.7%（5 社）であり、そのあと、「請負単価の低下、上昇難」、「民間需要の停滞」の 17.4%（4 社）が続く。

次に、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「民間需要の停滞」の 43.5%（10 社）であり、2 番目に多かったのは、「官公需の停滞」の 39.1%（9 社）である。そのあと、「請負単価の低下、上昇難」の 34.8%（8 社）が続く。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72
職別工事業	4	16
設備工事業	3	12
合計	25	100

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	企業数	構成比(%)
2 人以下	10	36.0	8	32.0
3 人～5 人以下	6	28.0	7	32.0
6 人～10 人以下	4	16.0	5	16.0
11 人～20 人以下	5	20.0	5	20.0
合計	25	100	25	100

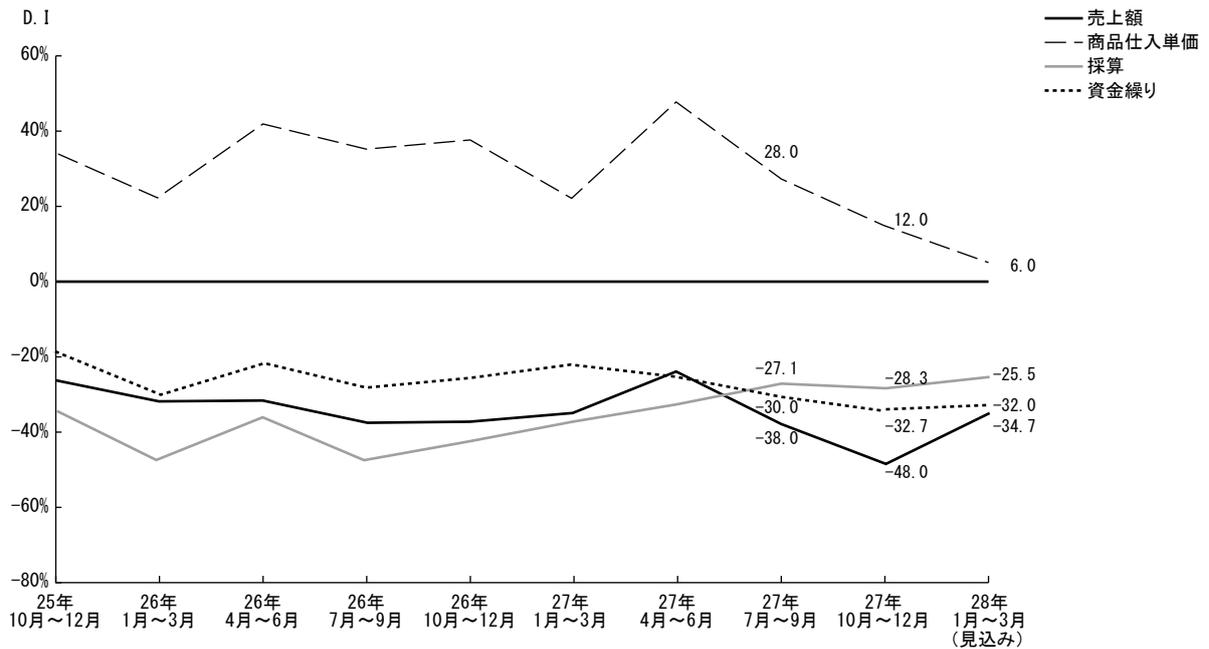
4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲48.0と前期比で10.0ポイント悪化している。一方、来期は▲34.7と改善する見通しとなっている。商品仕入単価D Iは、今期は12.0と前期比で16.0ポイント低下(改善)している。来期は6.0と更に低下(改善)する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲32.7と前期比で5.6ポイント悪化している。一方、来期は▲32.0と改善する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲28.3と前期比で1.7ポイント改善している。来期は▲25.5と更に改善する見通しとなっている。

今期は、売上額D Iと採算D Iが悪化したものの、来期は、全てのD Iが改善する見通しとなっている。

山梨県 小売業 主要景況項目の推移—前年同期比—



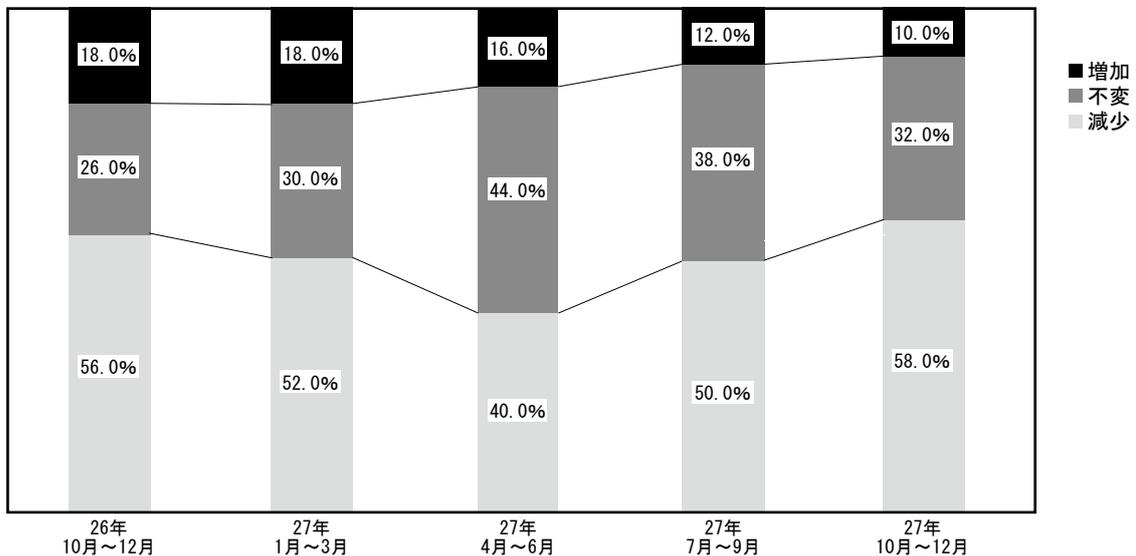
(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (回答企業数 50 社)

「増加」と答えた企業の割合は、10.0% (5 社) と減少している (前期比▲1 社)。

「不変」は 32.0% (16 社) と減少し (前期比▲3 社)、「減少」は 58.0% (29 社) と増加している (前期比+4 社)。

山梨県 小売業 売上額の状況—前年同期比—

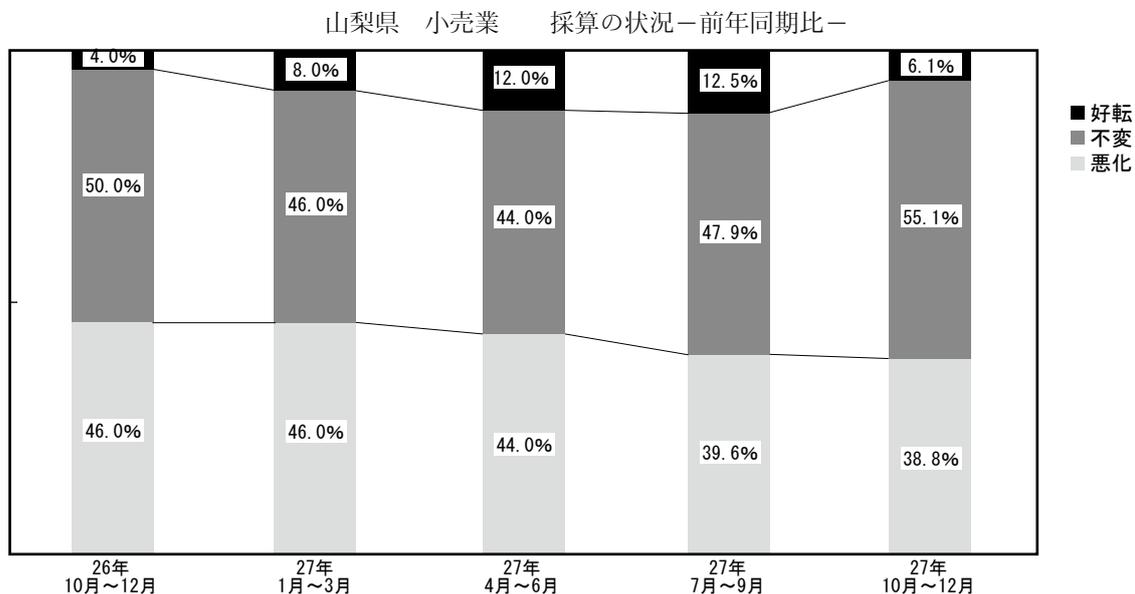


② 採算（採算D Iの内容（回答企業数49社（前期48社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、6.1%（3社）と減少している（前期比▲3社）。

一方、「不変」は55.1%（27社）と増加し（前期比+4社）、「悪化」については、38.8%（19社）と横ばいとなっている。



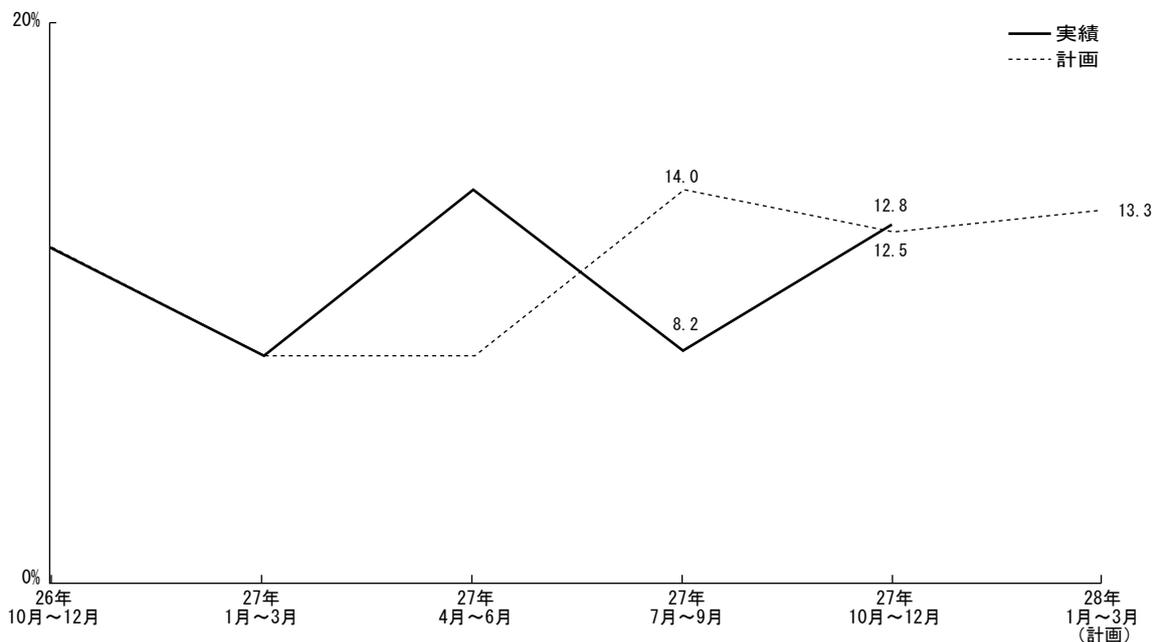
③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数47社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は12.8%（6社）であった（前期比+4.6%）。

その設備投資の内容は、「付帯施設」が3件、「その他」が2件、「店舗」、「OA機器」が1件ずつであった。来期の計画については、13.3%（6社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「車両運搬具」、「OA機器」が2件ずつ、「店舗」、「その他」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 49 社）

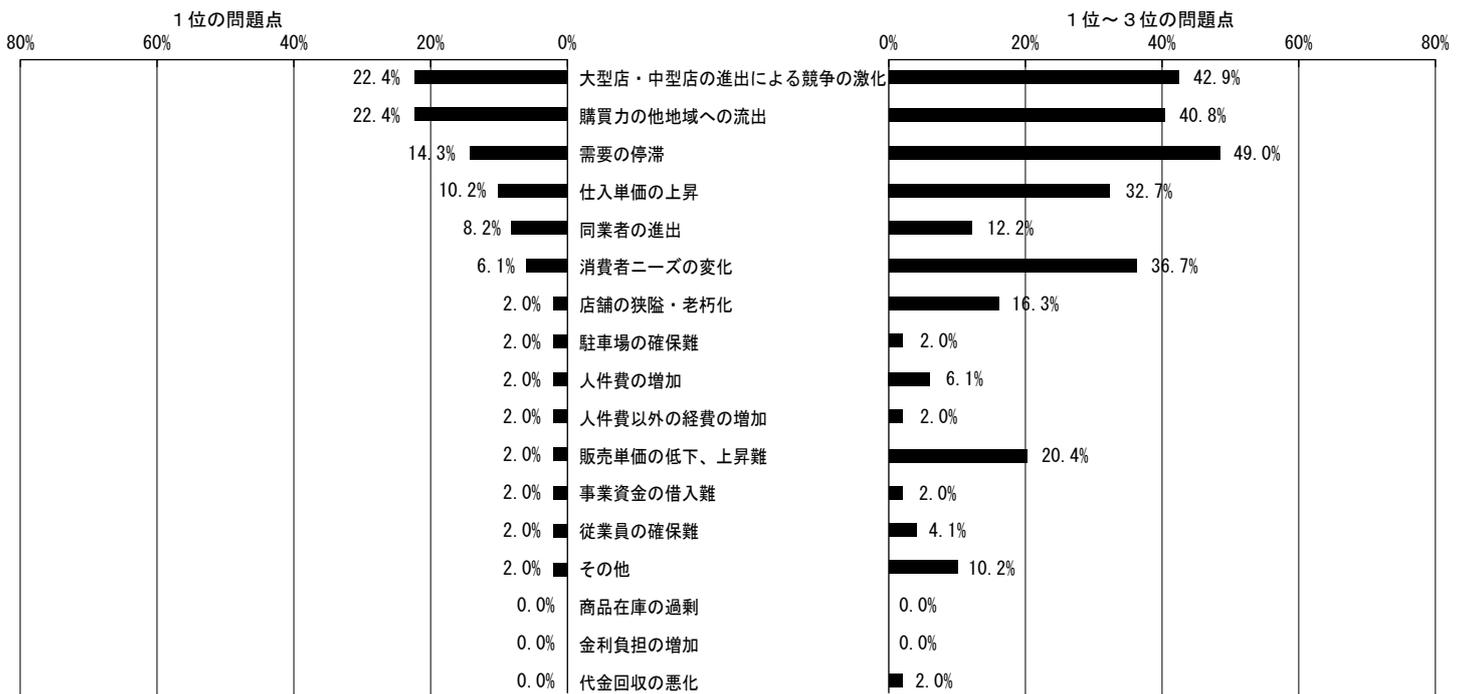
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「購買力の他地域への流出」の22.4%（11社）であり、そのあと、「需要の停滞」の14.3%（7社）が続く。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の49.0%（24社）であり、2番目に多かったのは、「大型店・中型店の進出による競争の激化」の42.9%（21社）である。そのあと、「購買力の他地域への流出」の40.8%（20社）が続く。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0
織物・衣服・身の回り品小売業	12	22
飲食品小売業	16	36
自動車・自転車小売業	2	6
家具・建具・じゅう器小売業	4	10
その他小売業	16	26
合計	50	100

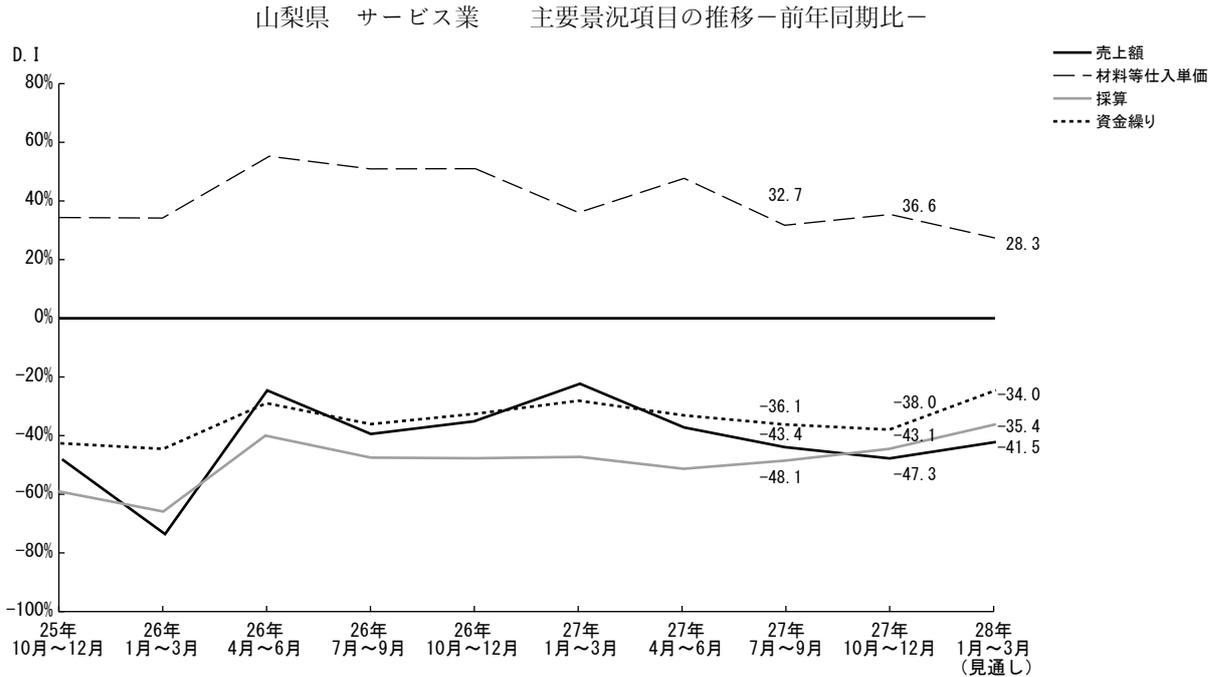
従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2人以下	46	90.0	40	80.0
3人～5人以下	4	10.0	10	20.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100	50	100

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、今期は▲47.3と前期比で3.9ポイント悪化している。一方、来期は▲41.5と改善する見通しとなっている。材料仕入単価D Iは、今期は36.6と前期比で3.9ポイント上昇（悪化）している。一方、来期は、28.3と低下（改善）する見通しとなっている。採算D Iは、今期は▲43.1と前期比で5.0ポイント改善している。来期は▲35.4と更に改善する見通しとなっている。資金繰りD Iは、今期は▲38.0と前期比で▲1.9ポイント悪化している。一方、来期は▲34.0と改善する見通しとなっている。今期は採算D Iを除くD Iが悪化している一方、来期は、全てのD Iが改善する見通しとなっている。

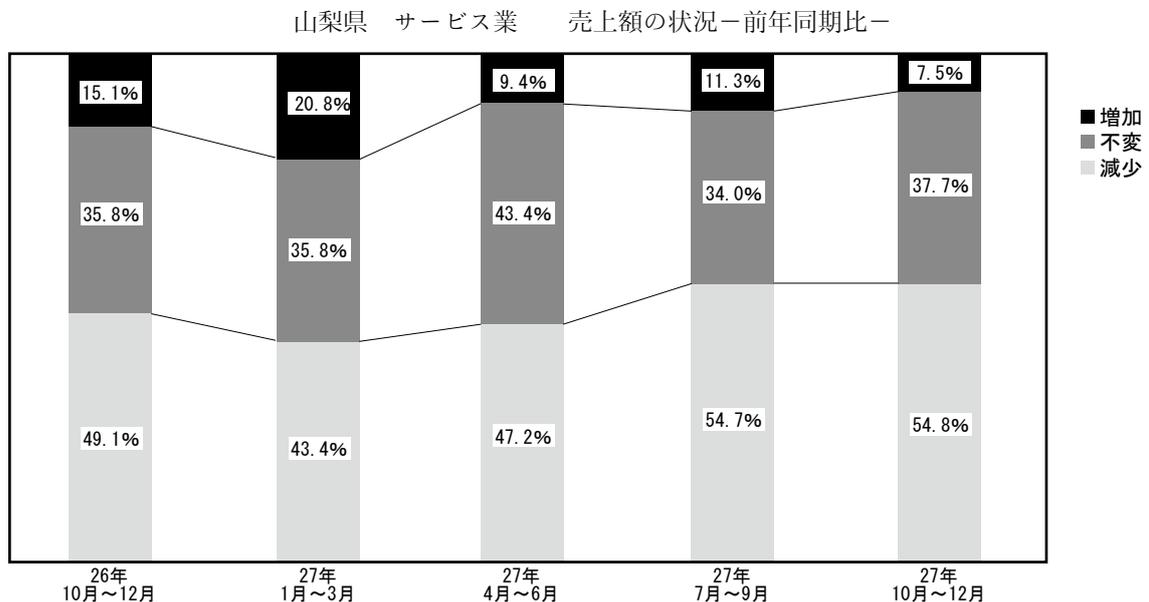


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社））

「増加」と答えた企業の割合は、7.5%（4社）と減少している（前期比▲2社）。

一方、「不変」は37.7%（20社）と増加し（前期比+2社）、「減少」については54.8%（29社）と横ばいとなっている。

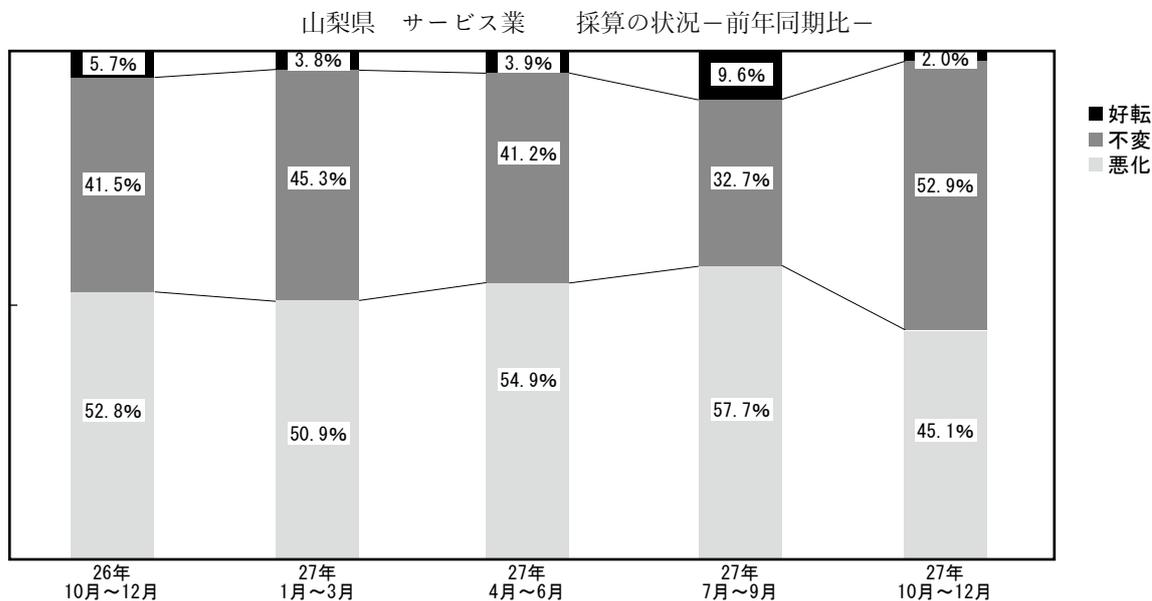


② 採算（採算D Iの内容（回答企業数 51社（前期 52社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、2.0%（1社）と減少している（前期比▲4社）。

「不変」は52.9%（27社）と増加している（前期比+10社）一方、「悪化」は45.1%（23社）と減少している（前期比▲7社）。



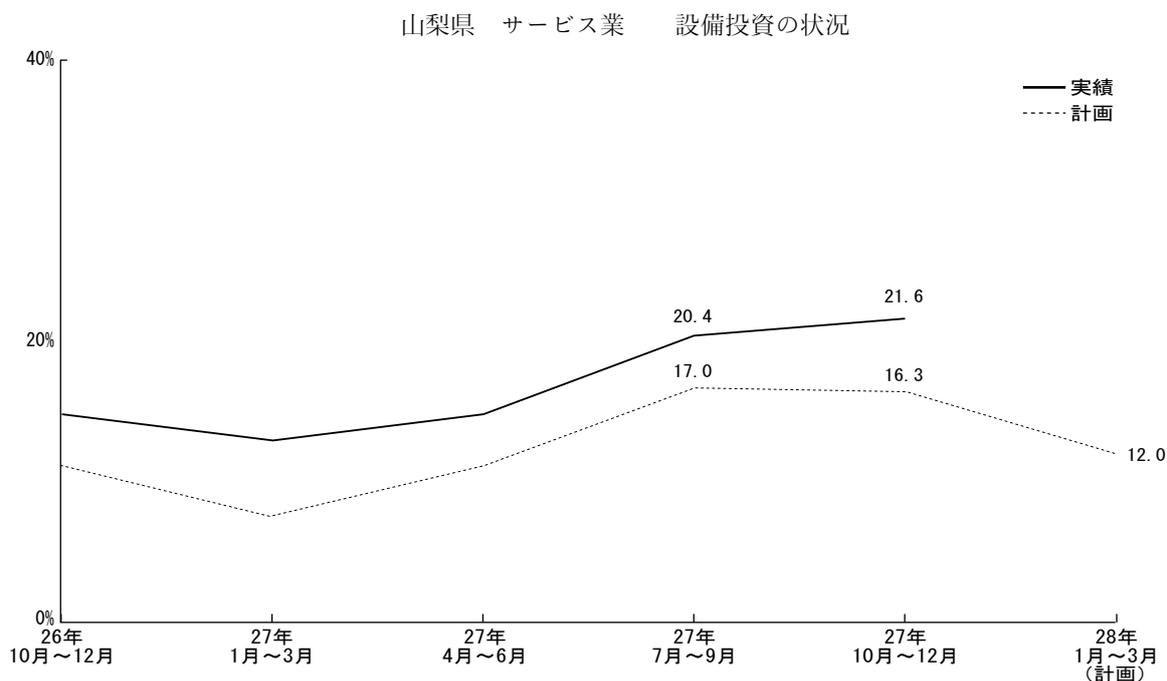
③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数 51社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は21.6%（11社）であった（前期比+1.2%）。

その設備投資の内容は、「建物」、「サービス」が4件ずつ、「付帯設備」が2件、「車両・運搬具」、「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、12.0%（6社）の企業が予定している。

その設備投資の内容は、「サービス」が3件、「OA機器」が2件、「車両・運搬具」、「付帯設備」が1件ずつになる。



④ 経営上の問題点（回答企業数 48 社）

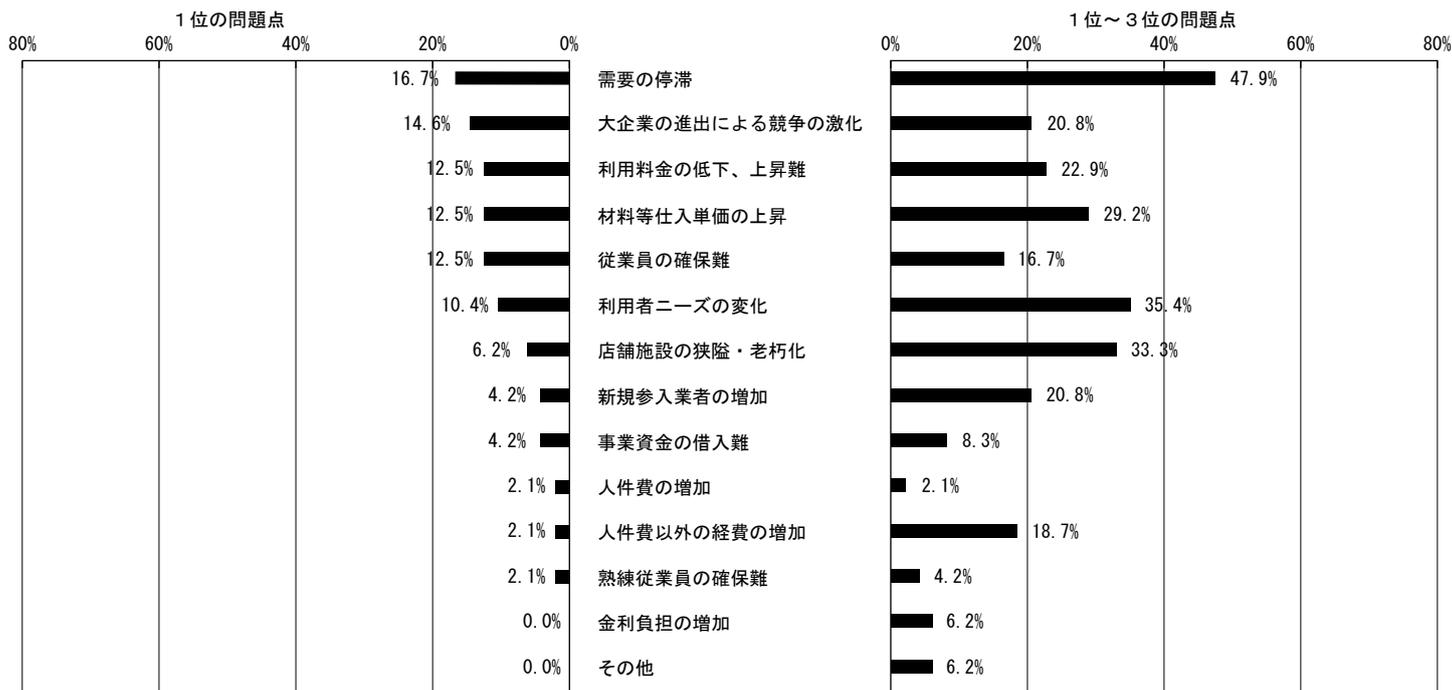
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の16.7%（8社）であり、2番目に多かったのは、「大企業の進出による競争の激化」の14.6%（7社）である。そのあと、「利用者料金の低下、上昇難」、「材料等仕入単価の上昇」、「従業員の確保難」の12.5%（6社）が続く。

次に、「1 位～3位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは、「需要の停滞」の47.9%（23社）であり、2番目に多かったのは、「利用者ニーズの変化」の35.4%（17社）である。そのあと、「店舗施設の狭隘・老朽化」の33.3%（16社）が続く。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	36
宿泊業	8	15
運送業	2	4
自動車整備業	4	6
洗濯・理美容業	16	30
その他のサービス業	4	9
合計	53	100

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	44	83.0	40	75.5
3 人～5 人以下	9	17.0	13	24.5
6 人～10 人以下	0	0.0	0	0.0
11 人～20 人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100	53	100